

藤

藤は日本固有の植物で、その紫やピンクの花は春が見頃です。春日大社の社紋に用いられており、モチーフとして巫女の頭飾りや社殿の装飾にも見ることができます。同様に藤の花は、奈良時代（710-784）に朝廷の要職を務め、春日大社を建立した藤原氏の家紋でもあります。

春日大社の境内にある古い藤の木は、樹齢 700 年以上で、「砂ずりの藤」と呼ばれています。それは、「藤の花が砂に届いてしまうほど下がっている」という意味で、垂れ下がった花房が 1 メートル以上の長さまで達することがあるからです。この古木は、1309 年に春日大社に奉納された絵巻の「春日権現験記」にも取り上げられています。